

女子校VS.共学お得意ごころ

男子の目を気にせずのびのびでできる女子校。中学高校時代から恋愛のチャンスが多い共学校。進学も絡み、どちらを選ぶかは難しい。

白いヘルメットをかぶった親子が熱心に見て回るのは地上5階建ての巨大な建物。外壁がようやく完成し、一部にタイルが張り始められたばかりだ。

10月下旬、東京湾の埋め立て地臨海副都心・有明北地区の建設現場に土日2日間で1200人以上

の見学者が集まった。

新築マンションではない。学校だ。嘉悦女子中学・高校（東京都千代田区）がここに移転して、中学の中高一貫校「かえつ有明」が来年4月開校する。

嘉悦学園は明治時代に国内初の女子の商業学校として生まれた。

当時の目的は裁縫、料理、文学を教え、女性が社会で働く能力をつけることだった。

それから100年余。

「日本の私学のほとんどは戦前戦後につくられた建学の精神が基本。時代にどう対応していくかが問われていると思う」（嘉悦克校長）

目指す姿は、理系重視の進学校。理科の実習・実験と結果をリポートにまとめる国語の表現力をもつにした新科目「サイエンス」を設ける。難関大学進学コース（募集30人）では、6年後にMARCHE（明治、青山学院、立教、中央、法政）に100%合格、国公立早慶上智レベルに50%合格と、掲げる目標も高い。

共学御三家あつていい

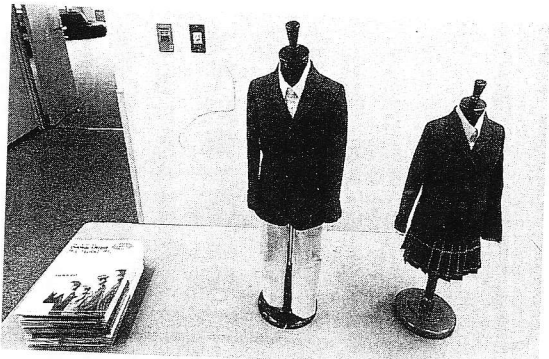
男子向け部活として、元Jリーガーの監督によるサッカー部や、マリンスポーツ部もつくる。

「最近の女子は元気で活発。その勢いに負けないように、7対3か6対4くらいの割合で大勢の男子生徒に入ってきて欲しい」

嘉悦校長は、こう期待する。

嘉悦だけに限らない。キャンパスを移転して共学化する学校は、男子校では、07年に法政大第一、08年に明治大明治と続く。37ページの表参照。私立校の人気二極化のなかで、生徒不足に悩む私立校の立て直しもあり、共学化が進んでいる。

森上教育研究所の森上展安所長



デザインは、制服の学校選びに参考にする。かえつ有明は、男子の制服を決めた。

は、

「中学受験は親が、高校受験は生徒が学校を選ぶ。生徒に選ばせれば、まず間違いなく共学を選ぶ。親の世代にも共学育ちが増えていく。学校といえども、こうした市場のニーズは無視できない」と見ている。

大手塾の日能研が今年7月に公開模試の受験生を対象に行った志望校調査でも、女子の共学志向はつきりと表れた。

女子の志望理由は「交通の便」

「現在の校風」「大学付属校だから」などに続いて、8位に「共学校だから」。15位の「女子校だから」を引き離している。男子は、「共学校だから」「男子校だから」が12位と13位に並んで



建設が進む「かえつ有明」の新校舎見学会には大勢の親子が訪れた。人工芝グラウンドや屋上庭園、300席のカフェテリアなどを備える計画だ

共学化した首都圏の主な
女子校・男子校 (日能研調べ)

- 1991 ● 淑徳 ● 日大第三 ● 明治学院
- 1994 ● 国士舘 ● 立正
- 1995 ● 青稜(青蘭学院から改名) ● 暁星国際
- 1996 ● 日大第二 ● 多摩大学目黒 ● 秀明
- 1997 ● 日大第一
- 1998 ● 千葉日大一中 ● 東京成徳大 ● 文教大付属 ● 八王子実践
- 1999 ● 東京電機大 ● アレセイア湘南 ● 日本大学中
- 2000 ● 杉並学院
- 2002 ● 早稲田実業 ● 工学院大学付属 ● 東京立正 ● 横浜学園
- 2003 ● 市川 ● 駿台学園 ● 明星(男子部・女子部が合併) ● 昭和学院
- 2004 ● 大西学園 ● 桜丘(桜丘女子から改名) ● 橘学苑(橘女子から改名) ● 時任学園 ● 武蔵野
- 2006 ● かつ有明 (嘉悦女子が移転して改名)
- 2007 ● 法政大第一(三鷹市に移転)
- 2008 ● 明治大明治(西調布へ移転)

いた。中学受験の「御三家」といえば、開成や桜蔭など男子校と女子校のトップ3を表す。「共学御三家」があってもいい。うちのほかにあと2校続いてもいい。と、威勢がいいのが、「渋渋」の愛称をもつ渋谷教育学園渋谷の入学試験対策部長、佐藤康さん(49)。96年に共学化した同校は、東大など難関大学への合格実績を出し、姉妹校の渋谷教育学園幕張(千葉市)

と共に注目されている。佐藤さんの呼びかけで今年7月、中高一貫の私立共学校が集まり、初めての合同学校説明会を開いた。塾や教育関連企業も参加した。会場は品川プリンスホテルでお茶やクッキーも用意し、参加校の制服ファッションショーを開くなど、イメージづくりを大切にしている。佐藤さんは、「共学の魅力は男子と女子がいて、



長野智子さん
田園調布雙葉中学・高校卒
「高校時代は先輩から交換日記を申し込まれたり、バレンタインデーにチョコをもらうなんていう女子校ならではの経験もしました」

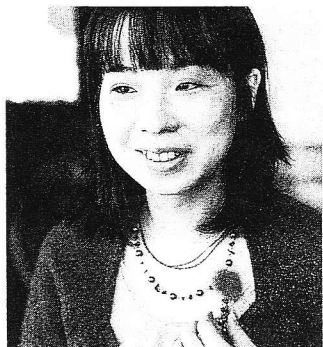
自然で楽しいこと。だからこそ、勉強にも頑張ることができる」と強調する。公立もライバルになる。今年開校した都立中高一貫校の白鷗を皮切りに、来年は4校の公立の中高一貫校化がスタートする。いずれ

「男子は学校の備品」高橋校長はドイツの週刊誌「ジュピゲル」の昨年5月17日号の記事「かしこい女子と間抜けな男子」を読んだ。男女の発達は差がある。別学のほうが合理的だという内容だった。改めて「性差を意識した男女別学の学校教育」の必要性を感じたという。「共学化の流れは、男女平等の理念からの行政の判断や、学校経営上の判断。純粹に教育的に望ましいかどうかは議論されていないように思う。女子校では女子が生徒会長も務める。これからの時代、リーダー経験は社会に出てから重要になる」(高橋校長)

女子校の学校説明会などでは、かつては女性らしさを育ててといったことをアピールする学校が多かったが、最近では変化している。「男子の目を気にせず、のびのびできる」「女子でもリーダー意識が高まる」「勉強に集中できる」といった点を強調することが多い。共学と女子校、どちらが得か損か。それぞれの出身者の話のなかにヒントがありそうだ。

まずは共学の場合。小学校からずっと共学で、県立湘南高(藤沢市)から東大教養学部に進んだエッセイストの岸本葉子さん(44)にとって、男子は「学校の備品」と同じだった。「机やいすと同じように教室に当たり前のようになっているものだったから意識しなかつたんです。大人になっても、わざわざ合コンみたいな場を設定しなければ出会いがないなんて発想がなかった。しまったと思つたのは20代後半になってから。それがこの年まで独身でできた理由かしら」

も共学だ。一方、「男女別学」の重要性を唱えるのは、和洋国府台女子中学・高校(千葉県市川市)の高橋邦昌校長。同校ではお琴や茶道が必修科目。しとやかで自立した女性を目標に掲げる。高橋校長は、共学の都立高校で三十数年教えていた経験から、「男女交際の節度を守ってといっても、思春期の男女が校内にいれば歯止めがきかなくなる危険性は高い。間違いが起きたときに、妊娠して進学に影響するなど困るのは女子のほうがだ」と強調する。



辛酸なめ子さん
女子学院中学・高校卒
「時間がたくさんあって自由でした。文化祭のポスターや修学旅行のしおりを描いて、表現という好きなことを見つけてよかったです」



和洋国府台女子高校の生徒に囲まれる高橋校長。
「自慢の娘たちです。純真な笑顔で学び、進学して仕事に就き、将来は幸せに結婚して欲しい」

ンを購入。天井の電球替えてでも何でも、すっかり自分でやるくせがついてしまったそうだ。
「いつも自分の力で試してみるのが当たり前で、男性に頼るといふ発想は出てきませんでした」
『博士の愛した数式』などを書いた作家の小川洋子さん(43)は県立岡山朝日高出身。図書室で1人で本を読んでいるような文学少女だった。
「もっぱら人間観察していました。図書室に来るカップルとかね」

野球部にあこがれの男子がいたので、木陰からひっそりと練習風景を見ることがあった。今でも校庭での野球練習を見ると、心が温まるという。
「男の人の幼稚さや無邪気さや単純さに早いうちから気づいていた気がします。だから大人になって男性にそういう部分を見せられても、驚かずに受け入れることができました」
高校1年の長男は男子校に通っている。

「男の子ばかりだと女子にかっこつけなくてもいいから、幼稚な感じをみたい。テストで悪い点を取っても『てへっ』という感じで」
同様に、男子の目を気にせず、のびのびと成長できるというのは女子校の長所だろう。

知らない男の人は怖い

幼稚園から高校まで私立の一貫校、田園調布雙葉学園(東京都世田谷区)に通った、キャスターの長野智子さん(42)は、
「小さい頃は太っていて足が遅く、勉強のできない子だったから、共学だったらいじめられて落ちこぼれていたかも」
と振り返る。ところが、小学6年のとき、国語の成績表になぜか「5」が付いていた。びっくりして担当の先生に理由を尋ねると、
「教科書の読み方などで非常に態度がよいから」
との返事。このことが励みになって、勉強に目覚め、高校2年まで「オール5」を取った。
「やればできるという成功体験を手に入れた。仕事でもう駄目だと思っても、頑張ればできると自分のことを信じられるのは雙葉のおかげ」
浮世離れた花園のような学校だったと思う。バドミントン部の合宿で夏休みに学校に泊まったことがある。トイレが壊れて困ったので、修道院のシスターに相談に行ったら、



岸本葉子さん
福井県立大付属
鎌倉中学、湘南高陵中
「松嶋菜々子さん主演のドラマ『やまとなでしこ』のような派手な合コンをやってみたかっただけなんです」

女子校育ちの悩み

「祈りなさい」
「ネタみたいな実話なんですけど、そういうのんびりしたところがありませんね。自分が生まれ変わるなら、男子がいる共学を選ばずと思えうけれど、もし娘が生まれたら、ぜったい田園調布雙葉にいたい。厳しい現実社会を知ると、ゆったりマイペースなあの環境が宝物のように思えるから」
と、長野さんは考えている。
漫画家でコラムニストの辛酸なめ子さん(31)は私立の女子学院(東京都千代田区)の出身。
「いまだに知らない男の人は怖い。じろじろ見られただけで、レイプされそうと思ってしまうほど警戒心が強い。男性からは『感じ悪い』と思われるしまうことも」
というから極端だ。小学校時代の少年たちが、大学で出会ってみればいきなり成人男性という「違う生き物」になっていて、何を考えているのかわからない。
「メリットはその警戒心でお嬢様っぽく見られることかな。実際は一口に女子校といっても校風はそれぞれで、女子学院は自立した女性を育てている感じですが」

共著『女子校育ち』のための恋愛講座』がある、心理カウンセラーの根本裕幸さん(33)は、恋愛や夫婦関係についての悩みを抱える女性のなかに「女子校育ちなので」と説明する人が多いことに気づき、本をつくるきっかけになった。
「思春期に男性がいない環境で育つと、男性への接し方がわからない。2パターンあって、男は宇宙人のように思ってしまったか理解できないか、同性の友人と同じに扱ってしまっ、突然自宅に遊びに行つて勘違いされたりする」
実際には、女子校が共学かというよりも、家族の中の男性比率が大きく働くという。男兄弟がいるか、父親が仕事で忙しくて不在がちでないかなどが影響する。カウンセラーという立場から、根本さんは良い面を生かしていけばいいとアドバイスする。
「女子校育ちには、一途なところや少女っぽさが残っているところ、ちょっとした気遣いが魅力になる。共学育ちは、失恋経験を引かずって男性不信になることもある。どちらが損得ということはありません」